

天地

ネットワーク テーブル 452号

発行：天地シニアネットワーク：2017・7・12

TENTĪ TODAY			1
連載作品			2
講演録	「60年安保闘争と高度成長時代の幕開け」(2)	加藤 幹夫	2
随 想	天のわざ、地のほまれ—地球を測れ、宇宙をはかれ 29. ボルツマン定数	伊那 闊歩	5
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語(25) 洛中洛外3・東寺(その1)	大竹 漢洲	8
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」		11
事務局			12

TENTĪ TODAY

記録的な大雨で大変な被害が出ている九州、今度は鹿児島で震度5以上の地震と自然界からの連続攻撃が続いています。一方、梅雨の中の猛暑がつづく東日本、最盛夏の水は大丈夫なのか、早くも心配されているようです。高齢者の健康には厳しい夏となりそうです。お互いに健康に留意し、無事に秋を迎えたいものです。

親しくしてきた友人の訃報や、闘病中のニュースが多くなりました。人生の終末をどのように迎えるか、どう向き合うかを考えなくてはいい、時期です。友人が、こんな詩を、教えてくれました。

最上のわざ

この世の最上のわざは何？
楽しい心で年をとり
働きたいけれども休み
しゃべりたいけれども黙り
失望しそうなときに希望し
従順に、平静に、おのれの十字架をになう一。
若者が元気いっぱい神の道をあゆむのを見ても、ねたまず、
人のために働くよりも、けんきよに人の世話になり、
弱って、もはや人のために役立たずとも、親切で柔和であること。
老いの重荷は神の賜物。
古びた心に、これで最後のみがきをかける。まことのふるさとへ行くため

に一。

おのれをこの世につなぐくさを少しずつはずしていくのは、真にえらい
仕事一。

こうして何もできなくなれば、それをけんそんに承諾するのだ。
神は最後にいちばんよい仕事を残してくださる。それは祈りだ一。
手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。
愛するすべての人のうえに、神の恵みを求めるために一。
すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声をきくだろう。
「来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ」と一。

ヘルマン・ホイヴェルス随想集「人生の秋に」より

大相撲ファンの橘さん、名古屋場所が始まって元気を取り戻したようで、
メールが増えました。スタートから大波乱ですが、優勝争いはどうなるか、
楽しみが長く続きそうです。女性ファンが多いのにびっくりします。

連載作品

「一橋大学創立150年史準備室ニューズレターN03」（2017年3月発行）より。内容については、事務局で抜粋し、編集させていただいています。

「60年安保闘争と高度成長時代の幕開け」（2）

加藤幹夫

安保闘争への関わり（一橋生の闘い）

1955・11・27

安保改定阻止国民会議の国会デモ。デモ隊が国会に入る。リーダーは收拾に困り流れ解散を指示。学生が国会内にとどまって抗議行動の継続を主張。同期の千野君の行動を思い出す。彼は国民会議のリーダーの乗る宣伝カーに駆け上がり、必死に説得を試みた。

1960・1・16

条約調印に向かう岸訪米を阻止しようと全学連が羽田空港を占拠。78名の検挙者が出た。一橋生も指令を受けて空港に向かったが空港に向かう途中で阻止された。

1960・4・26

全学連のみが国会への抗議闘争を行う。一橋生も国会前のバリケードを乗り越える。

1960・6・4

国鉄の労働組合（国労）が全国ストを行う。一橋生は、小金井駅で夜を明かす。始発から8時まで全国の国鉄が止まった。

1960・6・15

一橋生は国会には入らないことを決議して国会前に集結。現地に着いてから樺さんの死を知る。何故か警官隊が退いて、学生が国会内へ。一橋生で国会に入るかどうかで激論となったが、この間に学生は警官隊に押し出された。

1960・6・16

前期と後期で緊急学生大会が開かれ、無期限ストを決定。23日まで8日間ストは続いた。大学院生や大学職員も岸内閣に抗議。山中学長を含む88名の教員が岸内閣の総辞職を要求する声明を発表。

学部長会議の声明：

学生会の行動を阻止しない。警官の長力行動には公式に抗議する。今後の大衆行動に際しては十分に生命に気をつけるように。ストライキを休日にせめように。

1960・6・18－19

安保の自然承認を国会前で迎える。運動は一気に退潮に向かう。挫折観、敗北感が強かった。

この後、就任した池田内閣は、政治的課題を掲げず、「10年で所得を倍増するという計画」を表に立てた。これは7年で達成した。

「この計画は極めて政治的なものだった。――洋政権が手がけた日米安保条約改定に伴う死者を出すまでの敵しい政治対決に終止符を打ち――国内のあらゆる政治対決をタナ上げし、かわって経済の量的拡大の中で、各種の矛盾、亀裂を吸収することを狙ったものである。」（安藤氏）

●池田内閣の掲げた所得倍増計画は政策として優れたものだったと言わざるを得ない。当時既に高度成長が始まっており、この政策の有る無しにかかわらず、所得倍増は実現された訳で、この流れを巧みに取り込んだのである。この流れを読んで池田内閣に提言した、下村治氏（1910－1989）を始めとする有能なブレインの存在も忘れることが出来ない。その年の11月に総選挙が行なわれたが自民党が圧勝している。「政治の季節」が去ったのである。正直言って当時池田内閣の政策が実現出来るとは思っていなかった。「高度成長」とは後になってこの時期をそう称した訳で、その時に渦中にある者には殆ど自覚されていなかったと言ってよい。

安保闘争の意義

岸首相は安保改定を行い、憲法を改正して、自前の軍備を強化する路線を目指していた。安保闘争により、この路線は遮断され、つまり「普通の国家家」にはならず、軽武装、通商国家への道を選ぶことになった。その意味で現代にも繋がる日本の方向を決めた闘争だったと思う。但し、私自身がそれなりの意義づけが出来たのは、かなり時間が経ってからである。安保闘争終了時には前述のように敗北感が強かったのである。

最近聞いた文学者長谷部日出雄さんの話（安保闘争当時「週刊読売」記者だった）―「安保闘争の盛り上がりが無ければ、1962年頃から激化したベトナム戦争に自衛隊が派遣されることになっただろう。」

この意味は大きい。アジアの国々はアメリカの要請で軍隊をベトナム派遣したが、韓国は5万人規模の精鋭部隊を派遣。5千人が戦死。韓国軍の残虐行

為が今も韓・ベトナム関係に影を落とす。

60年安保闘争で作られた日本の方向はその後大きく変わることはなかった。それを支えたのは、護憲勢力とでもいう左派の力もあるが、何より自民党の保守本流と言われるリーダー達を含めて、この基本的な日本のあり方を変えようとしなかったことが大きな影響を及ぼしている。岸信介氏は、その後も憲法改正の実現のために奔走した。最後に期待をかけたのが中曽根総理だったが、彼も改憲に本気で取り組むことはなかった。

但し一方で結果として負のレガシーをも残すことになったのではないか。それは、独立国でありながら米軍の基地があることである。

安保闘争は基地反対闘争でもあり、これに手を焼いたアメリカは、当時まだ施政権下にあった沖縄に可能な限り本土から基地を移した。これが全土の基地の74%が沖縄に集中することに繋がった。

安保条約には地位協定がありこれにより米軍は今も治外法権的な地位を認められている。同じように米軍の基地のあるドイツや韓国はその後、繰り返してアメリカと交渉して改善をはかったが、日本はその交渉すらしてこなかった。

学生運動の日々を振り返って

運動に打ち込んだ動機は何だったのか。「戦争に巻き込まれることは決してあってはならない」という時代の要請の中で、それに繋がる動きをいち早くキャッチし警鐘をならすのが学生の使命と考えていた。(学生運動先駆性論)

私を含めて活動家の多くは、運動が社会主義の実現のステップになるのではないかと期待しており、安保闘争の高揚期には、結果として幻想であったが「革命の日も遠くはない」と思ったこともあった。(社会主義期待論)

前期と後期でストライキ闘争をやったが、学校側の処分は一度もなかった。文部省は学校の秩序を乱す学生への厳重な処分を促す通達を繰り返し国立大学に出しており、例えば東大と京大では厳しい処分が行われている。

当時の一橋大学の学校当局はこれに従わなかった訳だが、その事情は今では良くわからない。私は一橋大学に脈々と流れている「一橋リベラリズムの伝統」のお蔭ではないかと考えている。

東大では学校側の厳しい処分が行われたのだが、それでも当時を振り返って山本義隆氏(当時東大一年)は、「どれだけ激しい街頭行動に参加していても何の葛藤もなく学生生活の秩序に戻ることが出来た。6月20日を過ぎると学校は夏休みに入り秋からは学校生活は普通に始まった」と書いているが(山本義隆「私の1960年代」金曜日、2015・<原文のまま>)、これは一橋でも同じだった。

この時の学校が持っていた温かい包容力のようなものを忘れることが出来ない。(この時代のことは、何故か学校の正史というべき「一橋大学120年史」にほとんど記述がない。)

(つづく)

天のわざ、地のほまれ
—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

29. ボルツマン定数

前回、空気などの気体だけでなく液体や固体なども含め、身のまわりの物質を原子や分子のレベルで眺めて、その微視的な構造をしらべた。原子1つひとつを集合住宅（マンション）にたとえて、その住人（電子たち）の動向を垣間見た。各マンションは、最上階に電子が8人居住することによって安定するのであった。これをオクテット（8重奏？）の原則と呼ぶのだそうだ。電子たちは、最上階に8人（しかも男女4人ずつ）住むことに、たいへん強いこだわりがあるのだ。この電子たちの願望を実現するために、マンションをいくつか強引に連結することも頻繁におこる。それがすなわち、元素同士の化合（化学結合）なのであった。元素が気体であればマンションは空中に浮遊している。

今回は、気体が持つエネルギーに注目しよう。気体分子のサイズが大きくなれば当然複雑な動きをする。そこで当面、物事をできるだけ単純化して、分子の体積は無視できるほど小さく、分子同士固有の引力や斥力はなく、さらにボイル・シャルルの法則：

$$PV = nRT$$

が厳密に成立するような 理想的な気体—これを理想気体（*）という—を想定して話をすすめよう。

この理想気体は、一辺 L の立方体の容器（fig.1）に閉じ込められていてその体積は $V = L^3$ (m^3) である。P (Pa=パスカル) は気体の圧力、T (K=ケルビン) は絶対温度、 n は物質量 (mol=モル)、 $R = 8.31446$ (J/mol・K) は気体定数である。さらに気体分子の質量は m (kg), 閉じ込められた分子の数を N (個) とする。気体が容器の壁におよぼす圧力 P は、無数の分子が器壁に（高速で）ぶつかるために生ずる。そこでまず気体の分子1個に着目してその運動を追跡してみよう。fig.1 にはこの容器の中で運動する一つの分子の軌跡が描かれている。紙面右側方向を x 軸のプラスの向きにとり、壁に衝突する前の分子の速度(ベクトル)を $\vec{u} = (a, b, c)$ とする。 a, b, c は速度の x, y, z 成分である。ベクトル \vec{u} の大きさを u とすれば ピタゴラスの

定理により $u^2 = a^2 + b^2 + c^2$ と書ける。分子が壁に衝突して反射した後の分子の速度 \vec{v} は x 成分の符号だけが逆になって $\vec{v} = (-a, b, c)$ と書ける。

この分子が壁に衝突することによる運動量の変化は

$$m \vec{v} - m \vec{u} = (-2ma, 0, 0)$$

となり、作用反作用の法則により運動量の x 成分の変化の符号を逆にした量 $2ma$ だけが壁への圧力（の原因）となって測られるのである。運動量の y, z 成分は右側の壁への圧力には何ら寄与しないのだ。

時間 t （秒）の間にこの分子は x 方向に at （メートル）動くが、 $2L$ 動くたびに 1 回右側の壁にぶつかるので、 t 秒間に $at/2L$ 回ぶつかることになる。これに容器内の分子の個数 N を掛け合わせたものが、右側の壁が受ける衝撃（物理用語で力積 = 力×時間、という）で、それは換言すれば、 t 秒間に壁が受けつづける力 F なのである。力積は力と時間の積： Ft である。壁が受けた力 F を面積 L^2 で割れば壁にかかる圧力 P となるから

$$\frac{Ft}{L^2} = Pt = 2ma \times \frac{at}{2L} \times N \times \frac{1}{L^2} = \frac{Nma^2t}{L^3}$$

$L^3 = V$ であるから 両辺に V をかけて（両辺を t で割って）

$$PV = Nma^2$$

を得る。しかしながら、この結果は単純化し過ぎていて、分子すべてが同じ速度成分 a をもつわけではなく、いろいろな値をとるであろう。 a^2 はその平均値 $\langle a^2 \rangle$ で置き換えなければならない。速度成分に方向によるかたよりはないので、平均値ならば $\langle a^2 \rangle = \langle b^2 \rangle = \langle c^2 \rangle$ として良いはずである。分子の速度をあらためて $\vec{u} = (a, b, c)$ とすればピタゴラスの定理により、 $\langle a^2 \rangle = \langle u^2 \rangle / 3$ として $\langle u^2 \rangle$ を使ってかきなおせば、

$$PV = \frac{1}{3} Nm \langle u^2 \rangle = nRT$$

となる。物理的に意味のある量は速度の成分ではなく速度そのものである。 N_A をアヴォガドロ定数、 $N = nN_A$ とおいてこれを次のように書き直す：

$$\frac{1}{2} m \langle u^2 \rangle = \frac{3}{2} \frac{R}{N_A} T = \frac{3}{2} kT \quad (\#)$$

ここで、

$$k = \frac{R}{N_A} = 1.380658 \times 10^{-23} \text{ (J/K)}$$

をボルツマン定数といい、分子 1 個あたりの気体定数と見做される。ボイル・シャルルの法則は、ボルツマン定数を用いれば

$$PV = N kT$$

と書けることがわかる。一方、ここで、 $U = \frac{1}{2} m \langle u^2 \rangle \times N$ とおけば ボイル・シャルルの法則は

$$PV = \frac{2}{3} U$$

(##)

となる。U は容器に閉じ込められた気体の運動エネルギーの総和であって、これを気体の内部エネルギーと呼んでいる。

上に得られた数式 (#) は、ボイル・シャルルの法則を分子レベルに書き直したものである。この左辺は分子 1 個あたりの運動エネルギーの表式である。それが、ボルツマン定数を係数として絶対温度 T に比例すると主張しているのだ。絶対温度 T は分子レベルで気体のエネルギーを表す指標になっていることがわかる。数式 (##) はボイル・シャルルの法則を気体の内部エネルギー U によって表現したものである。

気体分子のエネルギーがわかれば、分子のスピード(の平均値)がわかる。気体の分子量を M とすると 1 モルの気体の質量は M グラムである。これをモル質量といい、M(g/mol)であらわす。水素、酸素のモル質量はそれぞれ 2(g/mol)、32(g/mol)である。M = m N_A (単位を合わせておかなければならないので、実際の計算では M = 1000 m N_Aとする) であるから

$$\langle u^2 \rangle = \frac{3R}{M} T$$

と表せる。これから、気体分子の 2 乗平均速度 $\sqrt{\langle u^2 \rangle}$ (m/s)を計算することが出来る (**).

以上の結果は、気体を閉じ込める容器は適当に小さくて、その上壁と下壁

付近の気体の（重力による）密度差は無視できるほど微小であるとした。それ故、気体分子の運動エネルギーの総和が、気体の全エネルギーを与えるのであった。しかしながら、この容器が巨大なものであったならば、高さによる気体の密度変化は無視できるものではない。そこで次に、気体の密度の高度変化について考えておこう。

ボイル・シャルルの法則は

$$P = \frac{N}{V} kT = \rho kT$$

(###)

と書くこともできる。ここで、 $\rho = N/V$ は気体の密度である。以後気体は空気であるとして空気の密度や温度が外気と同じであるとすれば、外気中においても (###) が成り立つはずである。そこで、地表からの高度が h から $h + dh$ になった時、空気圧の差 dP は、高度差 dh のなかに含まれる空気の重さによって表される。つまり、分子 1 個にかかる地球の重力は mg であるから

$$dP = - mg \rho dh$$

と書ける。ここでマイナスがつくのは、高度があがるにつれて空気圧はさがるからである。これと (###) から空気の密度 ρ を消去すれば、次のような微分方程式：

$$\frac{dP}{dh} = - \frac{mg}{kT} P$$

を得て、この形の微分方程式はすでにおなじみで、解は指数関数を用いて

$$P = P(0) e^{-mgh/kT}$$

と書けることを知っている。ここで $P(0)$ は高度 0 (地表) での気圧である (***)。密度についても気圧と同じ表式を得て

$$\rho = \rho(0) e^{-mgh/kT}$$

となる。ここで $\rho(0)$ は高度 0 (地表) での密度である

(*) 実在の気体分子には体積があり、分子間力があるため、ボイル・シャルルの法則は厳密にはなりたたない。実在の気体については、高温にして、圧力を低くすれば、理想気体に近づく。

(**) 気温 0°C (273K) のとき、水素分子は秒速 1800 メートル、酸素分子は

秒速 460 メートル等々。気体分子の 2 乗平均速度 $\sqrt{\langle u^2 \rangle}$ (m/s) は、平均速度 $\langle u \rangle$ (m/s) とは別物である。たとえば、 $\langle u \rangle = 0$ であっても $\sqrt{\langle u^2 \rangle}$ は必ずしも 0 にはならない。気体分子の 2 乗平均速度の具体的な計算例は、小牧研一郎「よくわかる物理基礎+物理」(学研)などを参照されたい。分子の質量の単位はキログラムで定義したが、モル質量はグラムで測る。単位は揃えて定義すべきであるが、統一されていないこともあるので、気をつけなければならない。

(***)この公式によって富士山頂の気圧を数値計算してみよう。P(0)= 1013 hPa, h = 3776 メートル、空気の分子量 28.8 グラム/モル、などを代入して計算してみると $-Mgh/RT = -0.469$

これから、P = 633 hPa を得る。理科年表によれば、P = 632.6 hPa となっている。しかしながら、この計算による数値はあまりにも一致し過ぎである。公式は高度変化による気温差を考慮せず、地表でも、富士山頂においても T = 273 K としたからである。

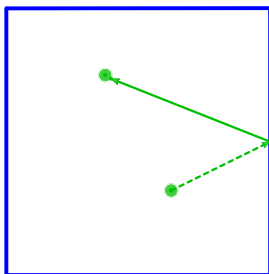


fig.1 容器の中で運動する一つの分子の軌跡。各分子は壁で全反射する。

<そうだ京へ行こう・古刹の花物語> (25)

大竹 漢州

洛中洛外3・東寺 (その1)

「東寺」
水上勉著 画文集 「京の思い出図繪」より

観智院の塀の中に安産不動というのが

あって、
大きな櫓の根方に、その祠が祀られている。
不動明王が安産の仏とはじめてわかったが、
そのあたりから、塔を拝んだ
むかしは、総門を入ったところに池があり、
亀がいっぱいいて、
中の島は亀のひなたぼっこの山だった
それがなくなり、池は、外へ出て、
二羽の水鳥があそんでいる。
亀のいた池は、私の瞳にしかない

J R 東海道新幹線で、京都に近づいてくると、先ず東寺の五重塔が目に入ります。京都の建物の高さ制限は、この五重塔を制限にして設けられています。正に五重塔は京都の南玄関のシンボルです。今は東寺五重塔しか目にすることができませんが、平城京の当初には、羅城門を挟んで、東寺と西寺の五重塔が左右対象に見えた時代もありました。

平安京に遷都された際に、国家鎮護の官寺として建立された寺院は、羅城門の両脇に置かれた「東寺」と「西寺」の二寺でした。しかし東西両二寺が建立され年代は、明確ではありません。又、平安京では東寺・西寺を除き、京中に寺院を建立することはできませんでした。色々な理由が言われてきました。最も大きな理由として、奈良時代に仏教を重視し過ぎて生じた弊害を避けようとしたことであると言われてきましたが、京に集中していた諸大寺を移転させる費用と混乱を考慮して、南都七宗派寺院の僧侶集団を、王権護持と仏教興隆に貢献させる「王都・仏都分離策」と言った考え方もあります。

何れにしても奈良の仏都に残ったことで、災禍に会わずに今日まで生き残ることができました。桓武天皇のお陰です。何が幸するか分かりません。

「東寺」は平安京に遷都された時を同じくして、造営が始まりました。遷都して25年後の弘仁9年(818年)になっても、金堂がやっと竣工された状態でした。唐に渡っていた空海が、最澄に続いて帰国したのは、大同元年(806年)です。この年に桓武天皇が亡くなっています。唐から最新の密教をもたらした空海に、親交の厚かった嵯峨天皇が、弘仁14年に未完成であった「東寺」を与え、以後「東寺」は真言密教の根本道場になりました。

余談です。密教は顕教と対をなし、秘密の教えという意味です。顕教が言葉によって説明される仏教に対して、密教は教理(一定の宗教や宗派が真理と認めている教えの体系)の造形化(象徴的・芸術的表現)や宗教的儀礼を重視する仏教です。

平安時代「東寺」の最大の仏教行事は「後七日御修法」でした。これは毎年正月八日から十四日まで、大内裏内の真言院と言う道場で、天皇の身体護持・国家隆昌・五穀豊穰・万民豊樂を祈願する修法を行いました。このほかに毎年、恒例の「国忌(先皇・皇祖・母后などの忌日に政務を休み追善の法要を行うこと)」、更に朝廷の命ずる臨時の仏事祈祷も行われました。

紀伊の高野山金剛峰寺が、空海の「真言密教の真理」を実践するための道場に対して、「東寺」は国家が維持経営する「官寺」としての性格が強かった

ようです。

旅人は同時期に造営された「西寺」の寺暦が気に掛かって調べてみました。小さなことが気にかかる性格です。

余談です。弘仁14年(823年)に「東寺」が空海に下賜されたと同じ年に、「西寺」は守敏に与えられたと記録されています。守敏は大和国石淵寺で住持勤操から三論・法相を学び、真言密教にも通じていたとも言われています。守敏は空海に対して競争心を持ち、何事にも対立したと言われていています。

弘仁15年(824年)の早魃の際、朝廷からの勅命で、内裏内の神泉苑で雨乞いの儀式が行われました。敗れた守敏の空海に対して放った矢が、地藏菩薩に阻まれたとも伝えられています。今日も羅城門近くに「矢取地藏」として祀られています。

天長9年(832年)には「西寺」の講堂が完成しています。その後、貞観6年(864年)までに、薬師寺から僧綱所(僧綱の事務所・奈良時代は薬師寺)が移転されています。醍醐寺縁起には、延喜6年(906年)に聖宝が「西寺」別院の別当(本官のある者が臨時に他の職にあたる意)になった記載が残っています。この後「西寺」は正暦元年(990年)に火災に遭いましたが、間もなく再建されています。建久年間(1190年代)に文覚上人が、塔の修理を行ったと高山寺の明恵上人が記録に留めています。

このように置かれた立場や経営体制の違いは、やがて両寺の運命の明暗を分けることになりました。平安時代末期になると、「西寺」は律令機構が崩壊していくのに呼応するようにさびれ、その後は荒廃して再建された塔も天福元年(1233年)には焼失して「西寺」はこの世から姿を消しています。

「西寺」は「東寺」と同様に、天皇が行う国忌を担う役割を持っていました。又、律令機構を担って鴻臚館として、外国使節を待遇する寺院でもあったようです。「西寺」が衰退した原因は、他にも地勢的な要因もありました。当時、右京は水捌けの悪い地域でした。平城京は東・北・西が峰々に囲まれ北から南のある傾斜が、やや西に傾いている地勢であったため、下右京は水が溜まりやすく、しかも飲料水も得られなかったため、平安時代末期の頃には人が住まなくなり、環境が極端に悪化しました。しかし地勢的な要因もさることながら、朝廷から援助を得られなくなったことが最大の理由です。今日、かつて「西寺」が存在していた証として、京都市南区の唐橋西寺公園内の土壇の上に「史跡西寺跡」の石碑とともに三個の巨大な礎石が風雪に晒されて残っているだけです。

これに対して「東寺」は真言宗派の寺院やその末寺に、天皇の皇子を多数送り込み、流派を門跡で固めることによって、寺院の維持を堅固なものにしていきました。この結果「東寺」は、その後度重なる焼失にもかかわらず、その度に再建されてきました。

東側の拝観入口から入ると、創建当初の位置のまま境内には、南大門から金堂・講堂・食堂が一直線に並び、更に五重塔が悠然として立っています。しかも「東寺」で最初に建立された建物が金堂です。現在の金堂は、桃山時代に再建された建物ですが、同時代を代表する建築様式で、天竺様の構造法

を用いた豪放雄大な気風が残っています。屋根中央部の切り上げは、東大寺大仏殿や宇治平等院にも見られる様式で、小屋根下にある小窓は、法要の時に開かれ散華したとも言われています。

金堂のご本尊は七仏薬師如来坐像です。薬壺を手にして無い古い造形様式です。光背には七体の化仏が配されています。両脇侍は日光、月光菩薩です。薬師如来の台座には、如来を守り如来の願いを成就させる十二神将が取り囲んでいます。この造仏は、奈良時代の様式と言われています。旅人が東寺で好きな仏様は薬師如来坐像です。東寺の薬師如来坐像には、秘めた力で人を救う慈悲の心を感じさせてくれます。仏様の姿は自然光の建物内で拝むのが理想的です。東寺はそれを叶えてくれる寺院です。講堂は「東寺」の正方形境内の中心に位置して、しかも正方形の講堂中心に大日如来が座しておられます。

官寺であった東寺を託された空海は、全てを注いで密教と言う世界を講堂空間に表現しています。空海の発想は雄大です。寺域を巨大な曼荼羅として構想しています。しかも空海は講堂に表現した密教の世界は、即ち「羯曇荼羅」一立体曼荼羅です。密教の教えを視覚的に表現しようとした。堂内に入ると、全く別の世界の空気が流れているようです。「曼荼羅」を抜け出した大日如来・菩薩・明王、そして天部の二十一尊の仏様が、空海に代わって大日如来の教えを語り掛けてくるようです。

余談です。「曼荼羅」には胎蔵界曼荼羅と金剛界曼荼羅とがあります。それぞれ諸尊の悟り世界を象徴する「理(普遍的な絶対・平等の真理・埋法)」と「智慧(般若・真理を明らかにして、悟りの開く働き)」と言う教えを伝えていきます。一定の方式に基づいて諸仏・菩薩・神々を網羅して描いた図です。

立体曼荼羅とは、「大日如来」を中心に「五智如来」。大日如来の右側には「金剛波羅蜜多菩薩」を中心に「五大菩薩」。左側には日本に初めて紹介された「不動明王」を中心に「五大明王」。須弥壇の四方には「四天王」がそして「梵天」「帝釈天」が警護するように配されています。

平安時代の皇族も貴族も、空海が創り出した真言密教の理想の世界を眼にして、驚きと恐れを感じたに違いありません。今日の間でも圧倒される力強さを感じます。

(この項つづく)

文化講座・講演会・

奈良興福寺文化講座 2017年7月20日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

講演：「運慶展の楽しみ方」

興福寺 執事 辻 明俊

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」

興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学) 文化学園 文化服装学院内
受講料：500円 先着200名
(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線
新宿駅3分)

第84回 新三木会講演会のご案内

- 1、日時・会場 2017年7月20日(木)13:00-15:00
如水会館(2F)・スターホール
 - 2、演題 『気骨のリベラリスト石橋湛山に学ぶ』
浅野純次氏 経済倶楽部理事・元東洋経済新報社社長
 - 3、申込・会費 E/Mail: shinsanmokukai@gmail.com
Tel: 047-464-4063
フルネーム: 一般・天地シニアネットワーク
会費:2000円 婦人1000円 学生無料
茶話会:15:15-14:20 千円(自由参加)
 - 4、ホームページ
<http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>
 - 5、予告
- 8/17(木) 第85回 伊東 隆氏 近現代史研究家 東京大学名誉教授
『昭和史と私』
 - 9/21(木) 第86回 鈴木興太郎氏 一橋大学・早稲田大学名誉教授
『血の通った経済学を求めて』
 - 10/19(木) 第87回 小宮山宏 三菱総研理事長 元東京大学総長
『プラチナ社会への技術革新』

事務局

<事務所までの道のり>

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号
(電話・FAX 番号：03-3837-0290)

御徒町界隈では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと(都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると)、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。(1階は焼肉屋「もとやま」。)そのビルの2階です。

<投稿歓迎><図書の推薦依頼>

<プリント版・郵送>

メール版(無料)を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくだされば送りします。その際には、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532
(口座名) テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

天地シニアネットワーク・テーブル・452号

● **発行：2017年7月12日**

● **天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)**

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室
TEL・FAX 03-3837-0290
E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp